

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月20日

協議会名:東京都離島航空路地域協議会

評価対象事業名:離島航空路における地域公共交通確保維持事業(離島航空路運航費等補助事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
全日本空輸株式会社	羽田～八丈島間を1日3往復 運航	・引き続き島民割引(アイキップ)を設定し島民の利便性の向上に努めている。 ・進入方式変更・風速制限緩和による就航率向上に継続して努めている。	A 天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B R6.4～R7.3までの計画運航回数2,190回に対して、R6.4～R6.11は1,354回であった。欠航は合計110回であり、天候不良等による欠航108回、機材繰りによる欠航2回となっている。結果として、確保維持計画における目標就航率(94.1%)に対し、実績就航率は92.7%となっているものの、就航率の維持は概ね達成できている。	就航率の維持及び冬期等の低需要期の集客対策を図る。(特定有人国境離島法に基づく運賃低廉化事業の継続実施)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月12日

協議会名：東京都離島航空路地域協議会

評価対象事業名：離島航空路における地域公共交通確保維持事業(離島航空路運航費等補助事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新中央航空株式会社	調布～大島間を 1日2～3往復運 航	東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、各島商工会等の主催で都内で実施された「東京諸島アンテナショップ」に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。 【乗務員の養成について】 R5.11月時点で機長8、副操縦士7の体制となっていたところ、R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職したためR6.11月時点で副操縦士5の体制となっている。R6年度中に機長8、副操縦士8の体制に回復すべく養成訓練を進めている。	A 副操縦士2名の離職があり早期に乗務員体制回復を図るため集中的に養成訓練を実施したことにより7月から2月にかけて便数を減らしたが、最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B 年間の目標運航回数1,564回に対して、R6.4～R6.11月までの実績は938回であった。欠航状況は、乗員養成の影響による減便が18回のほか、天候不良78回、機材繰り7回、機材故障3回の計106回。 結果として、確保維持計画における目標就航率(91.6%)に対し、実績就航率は90.0%となっているものの、就航率の維持に努めている。	運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 費用抑制を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施)
新中央航空株式会社	調布～新島間を 1日3～4往復運 航	東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、各島商工会等の主催で都内で実施された「東京諸島アンテナショップ」に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。 【乗務員の養成について】 R5.11月時点で機長8、副操縦士7の体制となっていたところ、R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職したためR6.11月時点で副操縦士5の体制となっている。R6年度中に機長8、副操縦士8の体制に回復すべく養成訓練を進めている。	A 副操縦士2名の離職があり早期に乗務員体制回復を図るため集中的に養成訓練を実施したことにより7月から2月にかけて便数を減らしたが、最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B 年間の目標運航回数2,920回に対して、R6.4～R6.11月までの実績は1,641回であった。欠航状況は、乗員養成の影響による減便が176回のほか、天候不良130回、機材繰り8回、機材故障2回の計316回。 結果として、確保維持計画における目標就航率(92.2%)に対し、実績就航率は84.3%となっているものの、就航率の維持に努めている。	運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 費用抑制を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施)
新中央航空株式会社	調布～神津島間 を1日2～3往復 運航	東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、各島商工会等の主催で都内で実施された「東京諸島アンテナショップ」に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。 【乗務員の養成について】 R5.11月時点で機長8、副操縦士7の体制となっていたところ、R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職したためR6.11月時点で副操縦士5の体制となっている。R6年度中に機長8、副操縦士8の体制に回復すべく養成訓練を進めている。	A 副操縦士2名の離職があり早期に乗務員体制回復を図るため集中的に養成訓練を実施したことにより7月から2月にかけて便数を減らしたが、最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B 年間の目標運航回数2,190回に対して、R6.4～R6.11月までの実績は1,222回であった。欠航状況は、乗員養成の影響による減便が96回のほか、天候不良145回、機材繰り4回の計245回。 結果として、確保維持計画における目標就航率(89.2%)に対し、実績就航率は83.7%となっているものの、就航率の維持に努めている。	運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 費用抑制を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施)
新中央航空株式会社	調布～三宅島間 を1日2～3往復 運航	東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、各島商工会等の主催で都内で実施された「東京諸島アンテナショップ」に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。 【乗務員の養成について】 R5.11月時点で機長8、副操縦士7の体制となっていたところ、R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職したためR6.11月時点で副操縦士5の体制となっている。R6年度中に機長8、副操縦士8の体制に回復すべく養成訓練を進めている。	A 副操縦士2名の離職があり早期に乗務員体制回復を図るため集中的に養成訓練を実施したことにより7月から2月にかけて便数を減らしたが、最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B 年間の目標運航回数2,190回に対して、R6.4～R6.11月までの実績は1,267回であった。欠航状況は、乗員養成の影響による減便が98回のほか、天候不良94回、機材繰り6回の計198回。 結果として、確保維持計画における目標就航率(92.0%)に対し、実績就航率は86.8%となっているものの、就航率の維持に努めている。	運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 費用抑制を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施)